

令和3年度 第2回学校運営協議会(コミュニティスクール) 報告

1. 日 時: 令和3年10月29日(金) 午前9時20分から11時20分まで
2. 場 所: 静岡県立東部特別支援学校伊豆高原分校
3. 出席者: 島田晴夫様(元伊東市立中学校教諭)
田畑まどか様(富戸地区放課後児童クラブ)
望月正仁様(NPO法人伊豆高原BASE)
金子みづほ様(PTA会長)
荻野耕介様(伊豆介護センター) (欠席)
学校 勝又将也(教頭)、佐藤弘康(高等部主事)、神戸あい(教務課長)

4. 内 容 司会(佐藤) 記録(神戸)

(1)教頭あいさつ

今年度から「学校運営協議会」に名称が変わった。コミュニティスクールとして地域に開かれた学校になるために、PTA会長と放課後デイサービスの望月さんに入っただき、学校運営に意見をもらいたい。

(2)学校の状況

○コロナの関係で学校行事などできないものがあった。職場での実習は、1学期に1回目はなんとかできた。2回目は、2、3年生ともに実習期間を延ばして実施している。校内では、緊急事態宣言中は、縦割りの活動をやめ、授業を組みなおして行ってきた。解除後は少しずつ外に目を向けて取り組み始めている。実習に関しては、3年生に関しては、昨年度は1回しかできていない。進路のことを考えると、どんどん外に出ていきたいところだが難しい。今年度、参観会もできていないので、保護者と教員のつながりが持ちにくい時期が続いた。少しずつ、学校と保護者、進路指導主事と連携をとってやっていきたい。

(3)前期学校評価の反省について

○学校目標の「守る」について、地震や台風に備えて、自分で天気予報を見て自分で判断できるように指導している。「育む」について、研修の窓口を職業に変えて取り組んだ。今までは教師の教え込みが多かったが、若手の職員を中心にICTを使って視覚的に分かりやすい授業づくりに取り組んでいる。時代はICT活用が多い。子供たちにその流れに乗れるように育てていかないといけない。地域とのつながりを持ちながらやっていきたい。「つなぐ」について：新構想高等学校に向けて、新しい制服や学校名の方向性が決まりつつある。現在は城ヶ崎分校と少人数で穏やかにやっているが、新構想になるとそうはいかないことも出てくると思っている。

→学童では、宿題など「教える」ではなく「やる気を出させる」という方針。ICTでは、最近タブレットの持ち帰りの宿題もある。児童がやっているけれど、何をやっているかは分からないので心配もある。

→タブレットの宿題は、親も何をやっているか、どうやるのかわからない。子供の方が分かっている。小学生に関しては、タブレットでなくても、ノートとペンでやればよいのと思う。障害のある子に関しては、うまく使えば便利なこともあるし、その方が伝わりやすいこともある。実際、操作はうまくできている。

→先生たちと話をする機会が少ないことが心配。初めての实習も、親も子も分からない状態だった。就職したらその後のフォローがあるのか、就職後もしダメになったらどうしたら良いのかということも聞きたい。面談もなくなってしまって、先生と密に話ができない。コロナのことがあるので仕方がないと思っている。

→全体では難しいが、学年ごとコロナの感染レベルに合わせて少しずつ(面談など)取り入れられるよう考えていきたい。

→進路に関しては情報がないわけではないが、保護者に出すには確実なものを出したい。となると微々たるものしか出せず苦しいところもある。コロナの警戒レベルが下がって、前よりは少しずつ出せるようになってくるとは思っている。

(4) 本校の新型コロナウイルス感染症対応について

○抗菌コート塗布を実施予定、「大型送風機」の設置。緊急事態宣言中は縦割りの授業をなくして行った。

【校内参観後の意見交換】

卒業生の掲示を見た。南中で進路先を考えるより、分校に入ってからの方が就職は見つかる。南中も昔より障害の幅も広がっているのでもっと連携していければと思う。

→コーディネーターが中学校に出向いて、(教育相談や指導について)話をしている。高等部の3年間ではなかなか何とかはならない。中学3年間と高等部3年間でやっていくという説明をしている。じっくりできるのは中学部。子供の資質能力をある程度中学生のうちに付けてきてもらえると、高等部でより良いスタートが切れる。伊豆高原分校がゴールではない。高等部も就職がゴールとは思っていない。中学校で抑えるところを抑えてもらえると良い連携が取れる。

→中学のうちにどのようなスキルが付いていると良いか？

→まずは、朝起きて学校に来るといった生活習慣。最近支援級の生徒数が増えている。その中には分校の対象ではない生徒もいる。就職先から言われるのは「仕事は職場で教えられるので、基本的な生活習慣や態度、働く意味を学んで身に付けてほしい」ということ。伊豆地区では通信制や私学の高校がない。そのため進学先に伊豆高原分校を選ぶ生徒もいるが、そうではないと伝えている。就労は、途中でやめてしまうかもという不安もあるが、支援機関を入れて、関係機関と就労先、家庭をつないでいる。囲むのではなく、地域とつなぐことをしている。学校では、優しさだけでなく厳しさも伝えている。保護者には厳しいと思われるかもしれないが社会に出たとき困らないように指導している。

(見学して)生徒たちが誠実だし一生懸命な様子が分かった。学童で見ている児童でも学校の勉強が難しい子がいる。教え方や環境で変わると思う。

校内が落ち着いている。伊豆高原ベースでは「大人の声が聞こえない」を目指している。地域とのつながりを考えて、良い所を活かして、地域に根ざしていきたいと思っている。

この状況なので、母たちは不安が大きい。日ごろ話ができないから心配。学校任せではダメだと思っているが、なかなか難しい。でも情報を集めていこうと思っている。